

子どもの豊かな育ちに向けたポジティブな行動支援の充実

特別支援教育課

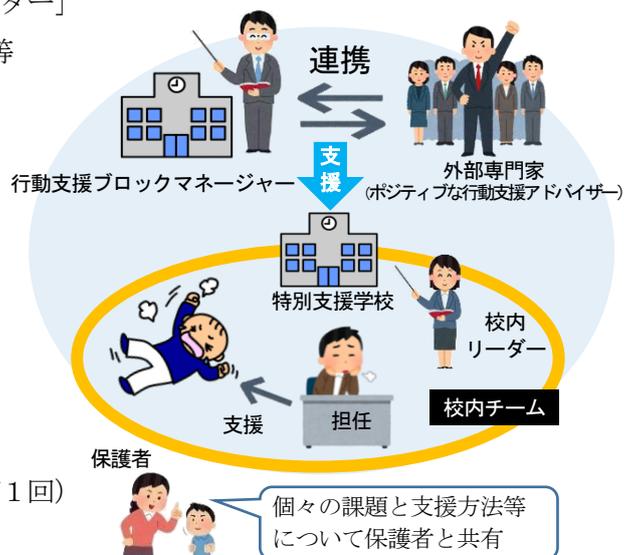
1 現状

○行動面に困難のある児童生徒の中でも、特に支援ニーズが高い児童生徒に支援するため学校体制の構築、教員の専門性の向上が求められている。

2 具体的な取組

(1) 「行動支援ブロックマネージャー」(4名)による各校支援 [コンサルテーション、事例検討会、研修会等]

- ・「行動支援ブロックマネージャー」が「校内リーダー」と連携し、支援が必要な児童生徒への対応に助言等の実施。
- ・各校の校内リーダーが、担任をサポートできるよう、学校解決力の向上を目指す。
- ・令和5年度の相談実績 ⇒402回(4月～2月)



(2) 行動支援に関わる校内リーダーを全校に配置

- ・学級担任への支援のサポート
- ・支援が必要な児童生徒への直接的な支援

(3) 教員等の専門性の向上 [研修会、OJT]

- ・行動支援研修会 ⇒ (希望研修3回、初任者研修1回)
- ・事例検討会 ⇒ (2校で2回ずつの計4回)
- ・実践報告会 ⇒ (校内担当者及び希望者、年1回)

(4) 行動支援データベース作成 [実践事例、Q&A]

《各校の好事例の具体的な取組例》

- ◇小学部の児童が大好きな余暇を楽しみにすすんで歯みがき・着替えをするようになった例
- ◇先生と野球することを楽しみに、学校での活動に参加ができるようになった例
- ◇中学部の生徒が、身の回りの基本的なことを進んで行えるようになった例
- ◇小学部の児童が、楽しく安全にスクールバスに乗車するようになった例



3 成果と課題

- 行動支援の研修会の受講者がのべ76名になり、参加者の多くがリーダー・サブリーダーとして、また担任として研修を活かして実践している。
- 全県の相談支援を通して、各校で行動支援をすすめる校内リーダー、サブリーダーが中心となって支援にあたる仕組みが校内に整いつつある。
- ▲ 行動障がい、特に他害については、相談の仕組みだけでは不十分であり、さらに予防的な対応が必要。
- ▲ よい実践が行われているが、校内での認知は不十分である。校内での好事例の共有の工夫が必要。